

1. 中国経済の現状と見通し

昨今の世界経済はサブプライム問題を発端とする世界的な金融危機により、2008年後半あたりから世界の景気は急激な悪化を辿っています。IMFやOECDなどの国際機関が、09年度の世界のGDP成長率が、戦後初めてマイナス成長に陥ると予想するなど、事態は深刻化しています。

その為、G7やG20など先進国及び新興国の首脳会議や財務相会議などの会合では、世界各国が景気浮揚の為の経済対策を打ち出す方向で協調体制を取ることが決められました。各国はそれぞれ財政出動を行い、景気の下支えをする計画を立てています。

そのような中で、中国の財政出動（景気刺激策）の規模は群を抜いています。中国の景気刺激策の総額は、今後2年間で4兆元（約60兆円）と発表されています。金額ベースではアメリカの2年＝約7870億ドル（約78兆円）には及びませんが、GDP比ではアメリカが約2.8%であるのに対し、中国は約6.5%にも上ります。

この景気対策が効果を発揮し、中国のGDP成長率は09年度もプラス8%台を達成する勢いです。世界全体がマイナス成長と予想されている中ですから、突出した数値となっています。

そもそも中国の経済成長は減速しているとはいえ、中国政府は外需から内需への転換を進めることで、09年においても8%という高い成長率を堅持しています。このような状況を見ると、中国の存在感が更に高まることは間違いありません。

グローバル企業においても欧米・日本といった先進国市場が低迷する中で活力のある中国を

中国の景気対策の内訳（単位：億元）

道路・鉄道・電気などのインフラ整備	15,000
四川大地震の復興対策費	10,000
低所得者向けの住宅開発	4,000
農村部対策	3,700
技術開発・産業構造調整対策	3,700
環境保護対策	2,100
医療・福祉・教育対策	1,500
合計	40,000



上海ワールドフィナンシャルセンターより

益々重要視せざるを得ない状況にあります。上段でも説明したとおり、中国は内需拡大に向け大きく舵を切っており、これまで以上に中国国内の消費拡大が期待されます。これは外国企業にとっても大きなビジネスチャンスであり、中国市場へ熱い視線が向けられる理由となっています。

2. 中国市場動向と商談会について

中国市場は従来から製造コストダウンを図る観点から「世界の工場」として位置付ける動きがありますが、一方で、近年は著しい成長を遂げる中国市場を「世界のマーケット」として位

置付ける動きが高まってきています。中国市場が注目される中、自社商品のPRを図り効率的なビジネスマッチングを行う場として、中国主要都市にて様々な商談会や展示会が開催されています。ここ上海でも年間約200程度の各種商談会及び展示会が開催されています。今回は、FFGが共催行として参加した製造業向けの「ものづくり商談会@上海(2009 SUMMER)」についてご紹介致します。

小報30～35ページにおいて、今後中国及びアジア主要都市で開催される展示会情報を掲載しておりますのでご活用ください。

3. ものづくり商談会@上海(2009 SUMMER)

概要

商談会はNCネットワークチャイナの主催、ふくおかフィナンシャルグループ(福岡銀行・熊本ファミリー銀行・親和銀行)の他、地銀8行、日本貿易振興機構(ジェトロ)上海センター等の共催により、09年7月16日、上海世貿商城(上海マート)にて開催されました。

【商談会概要】

開催日時	平成21年7月16日(木) 9:00～16:00 午前：出展企業中心の商談(個別面談形式) 午後：地元サプライヤーとの商談(オープン形式)
開催場所	上海世貿商城(上海マート) 7階 中華人民共和国上海市延安西路2299号
参加対象企業	機械・金属・金型・プレス業など、中国での部品調達先や委託加工先をお探しの企業
出展社数	131社(うち、ふくおかフィナンシャルグループ取引先11社)
主催	NCネットワークチャイナ
共催	ふくおかフィナンシャルグループ(福岡銀行・熊本ファミリー銀行・親和銀行) 伊予銀行、大垣共立銀行、京都銀行、七十七銀行、常陽銀行、中国銀行、 ほくほくフィナンシャルグループ(北陸銀行・北海道銀行)、ジェトロ上海、 マークライنز
商談会の特徴	製造業(主に自動車・家電・機械など)に特化し、出展企業が買いたい製品・部品を展示する「逆見本市」形式 (各行の取引先相互、および中国企業とのビジネスマッチング)

本商談会は出展企業が調達したい商品を展示する「逆見本市」形式となっており、機械部品、電子類部品、金型部品、ゴム・プラスチック部品、材料、表面処理など合計131社の企業が参加しました。



商談会は午前と午後の2部に分けられ、出展企業のニーズを事前にヒアリングし、マッチング候補企業を選定した上での予約制で確度の高い個別商談会を行いました。午前は出展企業同士による商談、午後は中国企業などとの「個別商談」及び「フリー商談」の2本立てで構成されました。今回の「ものづくり商談会」は、FFGが参加した過去3回の商談会の中では最大規模のものとなりました。新たな取引先開拓を



狙う意欲的な中国企業など約1400社(昨年対比+300社)、約2500人(同+800人)が来場、商談件数も3000件(同+300件)に上りました。

< 今回の商談会における F F G 取引先出展企業 11社の商談会アンケート結果 >

- ・商談件数：438件(1社平均40件)
- ・うち今後成約に結びつきそうな商談件数：32件(1社平均3件)
- ・当商談会に関する評価(10点満点)：平均8.0点

< 出展企業全体での比較 >

- ・今回出展した全体的な感想

項目	前回(08/07)		今回(09/07)	
	件数	(%)	件数	(%)
大変満足	15	12%	22	17%
満足	69	54%	80	62%
普通	39	30%	26	20%
不満	3	2%	2	1%
未回答	2	2%	0	0%
合計	128	100%	130	100%

- ・次回出展の希望

項目	前回(08/07)		今回(09/07)	
	件数	(%)	件数	(%)
出展したい	66	51%	89	68%
一般来場として参加	4	3%	5	4%
出展しない	1	1%	1	1%
わからない	56	44%	32	25%
未回答	2	1%	3	2%
合計	129	100%	130	100%

今回の製造業者向け「ものづくり商談会」では、世界に先駆けて景気が回復していることを背景として中国企業の注目度が高く、来場者数や商談件数は昨年と比べて大きく増加しました。また、事前の商談先選定の精度も高まったことから、アンケートが示すとおり、出展企業の満足度合いは昨年よりも上昇しています。商談会出展企業(中国企業)は主に調達先を探すことを目的として出展していますが、最近では中国を販売マーケットと位置付け、販路拡大を目的として出展する企業も増えており、効率的なビジネスマッチングを図れる場となっています。

4. まとめ

今年10月29日、30日には「第3回日本食品展示商談会」の開催が予定されています。本食品展示商談会は F F G 他地銀 9 行主催により開催され、今回で 3 回目を迎えます。日本食品をテーマに主催銀行の中国および日本の関連企業約 120 社が出展予定となっており、日本食品をテーマにした展示会としては最大規模となる予定です。食の安全問題に注目が集まる中、クオリティの高い日本食品業者が一堂に会する本展示商談会には中国各地から、食品卸売業者、流通業関係者、飲食業関係者など多くの業界関係者が来場し、直接かつ有意義な商談が行われることが予想されます。

福岡銀行の海外駐在員事務所(大連・上海・香港)では、お客様が海外でビジネスを行う際に必要となる情報の収集等を行っています。今後中国でのビジネスを検討される方、商談会に御興味がある方がいらっしゃいましたら、F F G 3 行のお取引店を通じてお気軽にお問合せください。

(上海駐在員事務所 田中 正洋)

深セン編

凸版印刷(香港)有限公司 凸版印刷(深セン)有限公司

今回は凸版印刷株式会社(本社：東京都台東区)の海外拠点である、凸版印刷(香港)有限公司(以下、凸版香港)と凸版印刷(深セン)有限公司(以下、凸版深セン)の2社をご紹介します。

凸版香港は1963年に設立され、当初は欧米向けの製本と香港ローカル雑誌の印刷・製本を行っていました。現在は香港のローカル雑誌の印刷をメイン業務としています。ハイテクの輪転印刷機、平台印刷機を導入し、高品質・高効率の実現と営業努力により香港の週刊・月刊誌で50%という高いシェアを獲得しています。

一方、凸版深センは凸版香港の分工場として1992年に設立されました。現在、日本向けの商業印刷と欧米向け書籍印刷が中心業務です。工場内には十数台の平台印刷機があり、手作業でしか出来ない製品(上製本・手帳・カード・絵本など)を製造しています。

ここで、位置的に近い工場(香港工場と深セン工場は直線距離で17キロ)が2つ存在している理由についてご説明します。

香港と深センの位置図



中国には報道規制をはじめとする様々な政治的規制が存在し、印刷物もその対象であり、地図を印刷する場合などにも政府の許可が必要となっています。しかしながら、一国二制度下にある香港では、規制の内容が中国本土と異なっているため、本土では断念せざるを得ない仕事でも、多くの場合、対応が可能です。このように深センで対応できない仕事を香港で対応することで、受注機会の拡大に結びつけることができ、それが当社の強みとなっています。

凸版グループでは、中国で事業展開を行っていく上で、様々なリスクを受け入れ、なおかつ中国に貢献できるビジネスを展開することができなければ成功は困難であると考えています。そのため香港と深セン両工場の経営一体化を進めてきており、この3年間の2社の連結営業利益は増加傾向にあります。



凸版深センの工場内の様子

今後は、凸版香港は香港・マカオにおいて更なるマーケットの拡大を図り、凸版深センは世界各地の凸版グループ営業所と新しいビジネススキームを構築しながら、受注シェアを伸ばしていく予定です。そして、中国国内の凸版グループ各生産拠点との融合を進め、一丸となり中国印刷業界ナンバーワンを目標に掲げ、成長していくことを目指しています。

(香港駐在員事務所 末松 尚樹)

PROFILE

現地法人名 / TOPPAN PRINTING CO.,(H.K.) LTD.

凸版印刷(香港)有限公司

住 所 / 1 Fuk Wang Street, Yuen Long Industrial Estate, Yuen Long, New Territories, H K

T E L / +852 2561 0101

F A X / +852 2475 4321



凸版香港・外観

現地法人名 / 凸版印刷(深セン)有限公司

住 所 / 深セン市宝安区創業路27工業区

T E L / +86 755 2796 3311

F A X / +86 755 2796 3262



凸版深セン・外観

親会社名 / 凸版印刷株式会社

住 所 / 東京都台東区台東1 5 1

T E L / 03 3835 5111(代表)